



コウガの森・共和から

園長 小林 崇

数の操作 科学する心の芽ばえ

7月は連日猛暑を記録し、熱中症警戒情報が繰り返し報道される日が続いておりました。園内でもプール以外の戸外遊びを中止し、部屋の中で過ごす日が続いています。

さて、7月28日(土)・29日(日)に全体職員研修を行ないました。姉妹園の梅花保育園の職員とともに、コウガの森・共和と新潟県南魚沼市を会場に、1泊2日の日程で和太鼓と数遊びの研修を実施しました。

数の遊びは2年前、毎月園の巡回いただいているポーター支援員 桑島 雅子先生にご考案いただき、年齢ごとに12の段階を設定して、数の規則性を学ぶ遊びとして園で行なっているものです。

進学した児童が両手指・両足指を使って計算している姿を見たことをきっかけに、園で過ごす時間の中で数を意識してみようと考え、生まれた遊びの振り返りを行ないました。

足し算や引き算などの数の操作は、学校で教えてもらうから出来るようになるのではなく、それまでの生活で得た経験の結果として出来るようになります。園では、足し算や引き算を行なう上で基礎となる、数を規則的に唱えること(1・2・3…)、数とモノが対応していること(りんごが1個・りんごが2個…etc)、数字の標記理解(イチは1と書く)等を子ども達が段階的に経験できるように、「1つ」が理解できることから「5つを分けること」まで12のステップで遊びを考えました。

研修では、コウガの森・共和の2歳児と5歳児、梅花保育園の3歳児と4歳児で取り組んでいる数遊びの様子を皆で検討しあいました。

2歳児では年間目標である3つの理解に向けて、現在は2つの理解に取り組んでおり、制作の中で2つのパーツ(タイヤ)を自分で取りに来る工夫を先生が行い、数を生活場面で経験する配慮を行なっている様子を見ました。

5歳児では、「5を分けること」(5は3と2・4と1に分解できる…)を教材で一斉指導する場面をみて、より良い方法の検討を皆で行いました。

数の規則性を乳幼児期に経験する機会は、家庭生活の中もたくさんあると思います。お風呂で1・2・3・4・5…と唱えること、お箸を家族に配ったり、おかずを分けたりするお手伝いを行なうこと、見つけた生き物の数を数えること等、数を唱えたり、数えたり、分けたりする経験はたくさんあります。

家で過ごす生活の中でも、「数」に意識を向けて、数の規則性をお子さんとの一緒に経験する時間を過ごしてみてもいいでしょうか。

お礼

保育参観では、保護者の皆様に家庭で行なっていたいただきたいことをお願いをさせていただきました。

中でも、5歳児では「文字の形を捉え、正しく書く」という点で、子どもたちに大きな成長が見られるようになりました。ご家庭の協力のおかげと嬉しく思っております。ありがとうございます。